



町防災訓練は 8月31日(日)

防災訓練では、実際に発生が予想される災害に備えて、防災知識を得たり、訓練を体験したりすることで、いざという時に、町民の皆さんご自身とご家族など大切な方の命を守るにつながります。

防災訓練の想定

8月31日(日) 午前8時に相模湾を震源とする大規模地震発生

自分の身は自分で守る 自分たちの町は自分たちで守る

地震などの自然災害をなくすことはできませんが、私たちがそれぞれの分野で、できる範囲で、災害に備えることによって被害を減らすことは可能です。

☎ 環境防災課 ☎84-0314

防災訓練の流れ

- ①町から訓練開始をお知らせ
町は、想定時間になりましたら、町防災行政無線で、訓練開始をお知らせします。
- ②いっせい防災行動訓練（シェイクアウト訓練）
各家庭内や職場内で、「姿勢を低くする」、「身を守る」、「揺れが収まるまで動かない」などの安全確保行動を1分間行ってください。
- ③自分の身を守る訓練
安否確認、火の元やブレーカーの確認、非常持出品の確認、家屋の点検をしてください。
- ④自分たちの町は自分たちで守る訓練
各地区の自主防災会の訓練に参加してください。各自治会によって訓練内容が異なりますが、地域避難所運営訓練、災害時要援護者対応訓練、消火訓練などがあります。

シェイクアウト訓練



- ①ドロップ：まず低く！
- ②カバー：頭を守り！
- ③ホールド・オン：動かない！

キーワードは連携

町と自主防災会の連携 〜モデル会場の設置〜

モデル会場では、町防災安全専門員が講師となり、町や自主防災会などが協力して、実践的な広域避難所開設運営訓練を実施します。今年度は、開成小学校がモデル会場です。



昨年度の自主防災会での様子

自主防災会と中学校の連携

昨年度に引き続き、「地域社会と連携した防災教育の推進」を目的として、文命中学校全生徒が、自主防災会の訓練に参加します。

中学生は、昼間に地震などの災害が発生した場合の重要な戦力です。中学生が、将来にわたり、家庭や地域を守る中心的存在となっていただけのように、地域の方のご指導ご協力をお願いします。

広域での連携

今回の防災訓練では、同時にビッグレスキューかながわ（神奈川県・小田原市合同総合防災訓練）が、小田原市を中心に県西地域を会場に実施されます。

町は、物資搬送訓練などの連携訓練に参加し、関係機関と実践的に連携を図ることで、災害時での有効性を高めていきます。

中学生は 地域防災の大きな力

文命中学校では、日頃から学校教育の中で、防災教育を進めています。町の防災訓練に全生徒が参加するのは、今年で2回目。学校は町防災訓練を授業の一環として位置づけています。これは、中学生の力を期待する地域と、防災教育を進める学校の願いが一致したことから始まりました。



消火器訓練に参加



文命中学校 中村校長

中村校長先生、 全生徒を参加させた きっかけを教えてください

東日本大震災が一つの転機でした。「釜石の奇跡」と呼ばれる事例をご存じの方は多いと思いますが、それを知って、生徒の防災意識を高めたと思っています。

学校では、集団下校の訓練をしたり、理科の授業で地震発生のメカニズムを教えたりするなどの防災教育をしています。授業でできる内容には限りがあります。一方、地域には専門的な技術や知識を持つ方がいます。そして、実践的な訓練をするための施設や器具があり、指導していただける環境が整っています。生徒には自助（自分の身を守る）こと、そして、共助（地域の人たちを守り助け

合うこと）を教えてください。実践的な訓練の中で災害時にどう動けば良いかを学んでほしいと思っています。

地域からの期待

地域の方々からは、災害時に中学生の力が大きな助けになると期待されています。日中には高齢者や乳幼児などいます。中学生が地域の一人として、防災訓練に参加する意義は大きいです。

生徒には、地域から大きな期待が寄せられていることを自覚して、防災訓練に臨んでほしいと指導しています。

地域に恩返し

昨年度は初めての取り組みでしたので、地域の方も生徒にも戸惑いや不安があったと思います。しかし、訓練を終えると、どの生徒も何かを感じ、色々と学んできていました。生徒はいずれ地域に恩返しできる存在になってくれると思います。成長途上の子どもたちですので、お気づきの点を指導していただき、温かく見守っていただければ幸いです。